

## 板敷山の法難 山伏弁円



関東絵伝（場面） 板敷山の法難・花見岡の大蛇濟度

板敷山は JR 水戸線福原駅から石岡市旧八郷町へ向かう街道の途中にある。左手に『板敷山山道』と彫られた石碑の細道を登り、少し行くとまた右手に案内板があるので、そこから徒歩で 200 メートル程登ると石組がある。そこが『弁円調伏の護摩壇』<sup>べんねんちようぶく</sup>と伝えられる場所である。

弁円は、このあたりの修験者として多くの山伏を従えていたが、親鸞聖人の教義が広まり始めると、祈禱などを求める人びとがめっきり少なくなり妬んでいた。そこで、聖人を殺そうと護摩を炊いたが効き目はない。ならばと、待ち伏せをし、暗殺を試みた。しかし、どうしても行き会えない。そのため聖人のいる稲田の草庵へ自ら赴いた。ところが聖人に出遇うなり、今までの自分を懺悔<sup>さんげ</sup>し回心して、聖人の門弟となり明法坊<sup>みょうぼう</sup>と名告った。

その後、建長 3 年 (1251) に 72 歳で往生を遂げたと聞いた聖人は、門弟たちへのお手紙の中で、明法坊が生涯、念仏に生き抜かれ事に「ただ返す返すも嬉しく思えばかりである」と言い切っておられる。

板敷山の南麓に弁円待ち伏せ石といわれるものもあり、そこに弁円懺悔<sup>さんげ</sup>の碑がある。

『山も山 道も昔にかはらねど かはり果てたる 我ころかな』

碑は新しいが、歌はむかしから人びとに伝わっている。



板敷山の法難 山伏弁円 1



板敷山の法難 山伏弁円 2